

刊夕日一十月六



定価 一冊五銭 一ヶ月五拾五銭 三ヶ月一圓二拾五銭 半年二圓 一年三圓 郵費別
発行所 常警毎日新聞社
印刷所 常警毎日新聞社

天孫民族の徳化 下

（石城郡教育部集會講演大要筆記）

伯爵 二 荒 芳 徳

又邇々藝尊は程なく大山津見命の姫君、木花咲耶姫と云ふ窈窕花の如き美人を娶られたが、大山津見命は國の神即ち先住民族で天孫民族ではない。

又邇々藝尊の第三皇子日子穗々出見尊は綿津見神の姫君豊玉姫と御結婚になり、又邇々藝尊の御孫孫草草不合尊即ち神武天皇の御父君も綿國見神の姫君を娶られてゐる。

當時の天孫民族はその偉大なる包容力と寛恕なる同化力とを以て、國の神を全く天孫民族の理想に悦服せしめたのである。

尙神武天皇の御東遷の途上に於ても異民族を同化し訓化せられて進まれたことは、實に美事に且つ輝かしく記述されてゐる。

斯くの如く包容力と同化力とあるが故に、中世に到り佛教來れば即ちこれを包容し同化して、日本佛教を完成し、儒教來れば直にこれを我が國体に融合せしめてゐる。

明治維新以後、西洋文明の攝取以後、日本固有の精

神を採求することを忘却した結果は、一時日本國民をして、外國文物の盲拜家たらしめた。そうして、近時一度國粹論の擡頭するや、國粹とは外國文物の排斥にあるが如く考へ、明治天皇の御誓文の御旨趣を始め我國の世界に於ける文化的使命を忘失したるの感がある。

實際滿洲事變以後の國粹論擡頭期に於ては、笑止千萬なる外國文化恐怖症に罹つたものである。

○明日の献立
●朝味噌汁 葱 小付
うぐいす豆
【書】さつまいも揚煮付
【晚】蒲焼(穴子) 酢の物
(わかめ二杯酢)煮物
(蓮根いため)

今や、世界は回つて來て眞箇の日本精神を求めて來た。即ち我々同志が古くよ唱へてゐる 皇國精神を求めて來たのだ。皇國精神の眞義をよく理解して廣くこれを世に實踐する處、少年團の本旨があるのである。即ち我等は此の事を健兒道

と稱し、三種の神器を、我等の目印、即ち「健兒章」と定め、兒童に對する社會教育の役割りを確保して居る我等の用ふる三指禮も、此の「健兒章」の精神や獨得な實誓の三ヶ條を体得して居る事の表象である。

そして、健兒道の行を積み眞箇の 皇國精神を胸に溢れ滿ちさせて、社會の爲めに有用な働きを發揮する處に生命があるのである。そして是等の修験は自然の懷中に抱かれ、諸般の訓練を勵む事に依つて果されるのであるが、それも面倒な理窟を並べて兒童を惱ますのではなく、競技や遊戯に織り込んで常に「健兒」の自覺を促す處に妙味があると

思ふ。 恐れ多い事ながら 陛下が攝政の御時代御外遊の際英國エジンバラの少年團を御視閲遊ばされて、我國の少年團も貴い使命を實現する事に協力を切に望むとの御命令を賜つた。

我々は益々此の運動の隆昌を祈念して現在働かす、あるのであるが傍聴者各位もどうぞ健兒道の社會教育性を御研究になり、健兒道を通して日本精神の發揚をお薦めしたい。

（終）

品自慢と

正直な値段

自轉車リヤカー

フ タ バ 商 會
新川町 郵便局前

耳鼻咽喉科専門

平田町（電話 六九番）

山内醫院

醫學士 山内亨 吉

初夏！

車は走る新緑の中！

微風のごとくスピード走る
三井タクシーの乗心地よさ

是非御用命の程を！



X外科 内臓外科 院長 安齋 徹

光線科 院 長 安齋 徹

産婦人科 醫學士 黒澤 廣

△入院隨意△
平田町 田町
安齋 醫院
電話 四七五

婦人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑士 大岩俊雄
平町新川町十九
病室完備 入院隨意
木村病院
電話一六四番

端午の節句御飾品一式 特價大賣出し

御座敷職、布紙鯉、五月武者人形陣道具類、別選白抜布鯉及附屬一式例年の通り豊富に取揃へ、良き品を安く御得意本位主義を以てドンと特價に可差上御一覽の程を御待致します
陳列品中三尺緋緘鎧及勿來の關人形大函入右品は特に御相談に應じます
落花生問屋
叶星號 加藤商店
平三丁目

五月節句御祝品出賣

五月節句御祝品出賣
御座敷敷揃
武 者 人 形
陣 道 具 揃
鯉 布
ソ ト 織

平町四丁目
スガノヤ提灯店
電話九五番

和漆器家具は和久屋

和久屋
電話四五番

一通の投書から

平小唄問題化

新發田小唄と同巧異曲

▽…放送を聞いて吃驚

『花の新川、櫻の土手を…』で廣く人々に愛誦される『平小唄』—これは昭和六年平教育會が郷土愛の源泉を小唄に求めて一般から募集した際に入選した大内文平氏の傑作である事は人の知る處である、處が最近新潟放送局から全國中継で放送された『新發田小唄』が歌中の地名こそ異なるが全く同巧異曲の小唄であるとして、この放送を聞いた某氏が大いに驚き早速本社に寄せた投書『平小唄の疑惑』が本紙に掲載された爲め世の注目を惹き何れが剽窃かに就いて俄然問題化するに至つた

何れが早く

發表されたか?

問題の焦點は懸て此處に

平小唄の原作者大内文平氏は實は現在舊城跡佑賢學舎に教鞭を執りつゝある早稻田英文科出身岡部儀重氏のペンネームで同氏は温厚篤實な人、生徒からの信任篤く他人の作を剽窃するが如き非人格者とは全然考へられぬ教育者タイプ、一方新發田小唄の作者は一時詩壇

二等の入賞作に

故巖谷氏が朱筆

それが現在の平小唄 博覽會當て込の企て

『平小唄』の募集は當時博覽會の開催を當て込んだ企て

るとの事で『花の新川…』の大内文平氏の作が採用され、それに巖谷氏が朱筆を入れて訂正、更らに原作は十九節迄であつたのを巖谷氏が最後の結びに

誰もいはれを徳尼様の徳にうるをよ稲田の上に

今も名高い尼子橋

と自作の一節を附加して甘節とし、ビクダ一専属の町田嘉章氏が作曲、花柳徳之輔氏の振付に依つて世にデビューし熱狂的の歓迎を受け流行歌として平地方を席捲したのである

版權侵害の

面倒な法律問題

何れが剽窃したか場合に依つては版權侵害の法律的難問題に達する事にもなり、新發田兩町民が愛誦しつゝある一種の郷土歌だけに

友人に一度

見せた事がある

▽…當の岡部氏語る

當の岡部氏は左の如く語る それは初耳です、私の書いたものと殆ど同様の作詩が新發田にあるとのことですがお尋ねの時期問題も私の考へる處では相馬先生の作詩と云ふことは何等かの誤りではないかと思はれ、最初私

せれば判明することです が成べく私はそうした騒

工費十二萬圓で

勿來驛の大増築

人絹インフレの沈に乗る

常磐線勿來驛は狹隘腐朽甚だしく人絹工場其他炭礦關係の貨車輻輳を告げる折柄東京鐵道局では今回工費十二萬圓で驛舎及引込み線の増改築を行ふこととなつたが本年中に竣工する豫定である

平局管内

局舎良好局

仙遊局で指定

平局管内三等局で局舎並に事務設備の充實した左記八局は今回仙臺通信局の局舎良好局として指定された

品不足で

米價稍高値

平農倉共販

平農業倉庫は今十一日午後三時から俵米共同販賣を行ふが出荷数は三等六俵四等三百三十二俵、五等六百三十七俵、幸外二百六十八俵合計千二百四十三俵で米價は市場の品不足から強氣を見せて居る

石城販組で

總代會開催

石城販賣利用組合は明十二

ぎはしたくありません

を開き商友會の母校新築費寄附金募集助成の件其他種々協議した

平町人事

- △長橋町三〇 植頭憲太郎 氏二男義之
- △三町目三六 當時旅順市 松村町二二ノ二二高橋二 郎氏(二八)東京市杉並區 和田本町八八九小峰みね さん(二七)
- △十五町目二二 宮本國松 氏(二四)立町五山野邊ス ヨさん(二二)
- △材木町一 猪狩久吉氏 (二三)

整形外科

レントゲン科

醫學士 大河内一郎
柔道 大河内寅男
整復師 大河内接骨院
平町播磨小路四(電五八八)
舊稱 大河内接骨院
大河内整形醫院

社員採用

固定給參拾圓外手當支給
二十才以上五十五才迄
希望者は履歴書持本人來談

日本商事株式平支部

債 現物買附
社 擔保貸附
債 擔保貸附

平町鍛冶町十八

シーズン随一の

警中 平商 野球戦

興味の裡に明十二日開戦

警中對平商の野球試合は明十二日午後四時から警中球場で行ふ事になつたが兩校のメンバーは左の如く今シーズン最初の對抗試合だけに如何なる戦績を残すか一般ファンから期待されてゐる、尙今後は續けて練習試合を行ふ由

警中 瀨芳田山成三藤代木
野 長水河秋金水達矢鈴
平商 本澤吹塚木葉藤木下
橋會矢大荒千佐鈴森

覇権を目指して……

警女軍征途に上る

關東北女子籠球大會出場

既報來る十三、四の兩日開催される東京女高主催の關東北女子中等學校籠球大會の覇権を目指し連日猛練習中であつた警女籠球部は愈々明十二日午後二時十分で新妻、石山の兩校論引卒の下に出場する事になつたがメンバーは左の如く決

定された
(主將)阿部トシ子(フオワード)阿部トシ子 大泉美晴子 長瀬喜美子 桑原ハツノ(センター)飯塚テフ 北村琴子(ガード)新妻セイ子 花澤ツヤ子 志賀勝代 飯塚サト子

郷倉破りの

犯行續々白白

犯人は本郡田人村生れ

田人村字熊谷生れ當時南會津郡旭田村大字澳田佐藤好次方土工前科三犯油座庫次郎(四)は會津地方郷倉破り犯人として田島署に檢舉さ

れ取調べ中であつたが同人は去る四月中二回に亘り同村澳田の郷倉より穀四俵及五月には同村鹽生の郷

倉より穀二俵同部落精米業佐藤清四郎方から白米一俵を窃取したと自白送檢された

女教員の視察 南會津郡女教員數名は來る十六日高木縣視學に引率され第二校視察の爲め來平すると

坑夫の窒息死 好間村大字北好間字權現堂一七隅田川炭礦採炭夫北原信一郎(三)は八日午後六時頃坑内で採炭作業中炭酸ガスが

昨十日夜九時半頃「消えたあの人を探して下さい」と妙齡の美女が平署に飛び込み何事か譯の解らぬことを云ふかと思ふと「妾なんか阿部定よりもつと愛情が深い」と許り例の東京に惹起して

「お定」以上と

自負する狂女

處女の誇りを奪れて

昨十日夜九時半頃「消えたあの人を探して下さい」と妙齡の美女が平署に飛び込み何事か譯の解らぬことを云ふかと思ふと「妾なんか阿部定よりもつと愛情が深い」と許り例の東京に惹起して

のと同署員に保護檢束され昨十日コックの佐瀬が送つて郷里に歸る途中無情な佐瀬は何れにか姿を晦ましたので斯くの始末に 判明したが極度の衝撃を心に受けた彼女

入質の貴金屬類を 窃取して悠々逃走

多田井質店の被害 非常手配で捜査中

十一日午前三時頃平町大工町質屋業多田井笑次郎氏方表戸口の通風窓をローソク様のもので焼き切り内部に忍び入り金品を物色店先の金庫に手をかけたが錠前が嚴重で開扉せぬところから側にあつた貴金屬箱の金銀

並にクローム等々腕時計、懐中時計五、六十個の入質品價格約五六百圓を窃取、前記焼切つた箇所から悠々逃走した犯人あるを今朝になつて家人が発見かくと届け出たので平署では早速管内に非常手配をなし犯人捜

明日のラジオ

今晩は北の風晴時々曇 明日は北東の風晴時々曇

今晩の部

- 後八、〇〇 童謡と唱歌 福島縣福島市第一信夫郡飯坂兩校兒童
- 後六、二五 講演「我國の二期について」堀口由己
- 後七、三〇 講演「東北と工業」鶴見仙臺高工校長
- 後八、〇〇 清元「古寺」清元壽美太夫他
- 後八、三〇 絃樂四重奏「七つの小品より」釜木クワルテット
- 後八、五〇 浪花節「鬼吉の度胸」廣澤虎造
- 後九、三〇 時報 ニューズ 明日の話題 氣象通報 番組豫告

屍体となり 發掘さる

坑夫一名壓死

港本町入山炭礦第四坑内で昨十日午前九時半頃採炭作業中、落盤あり採炭夫同町傾城四〇大内健藏(四)並に同町日渡六〇高橋丑之助(三)は下積となつたが大内は同日午後二時半高橋は五時屍體となつて發掘された

郡南荒し

鼠賊逮捕

余罪多數自白

上遠野村字瓦野農石田久馬方から去る五日自轉車一臺(價格三十圓)を窃取、盗ん

妻子を捨て、數年

始めて知る人間心

流浪の老人投身自殺?

十一日午前四時頃永戸村大字渡戸地内の川中に老爺の溺死体浮き上つてゐるを通行人が発見したが右は同村草野清之助方同居人馬吉(七)で十數年前妻子を捨て、家出最近になつてふらりと歸村したが頼りに思ふ妻子にも今更顔を合はせられぬので前記草野方に厄介になつてゐたもので原因はそれらを悲觀した結果と見られてゐる

勿來錦間

自動車道路

勿來町では字田ノ口から錦村昭和人絹會社に至る千二百米の自動車道路を新設すべく豫て計畫中であつたが工費關係で行惱んでゐた處昨十日同町字窪田有志が同町役場に促進方陳情する處あつた爲め近く町會を開き具體案を樹てる模様であ

- ### 明日の部
- 前六、三〇 國語講座 佐伯常磨
 - 前七、〇〇 朝の修養「大日經」服部如實
 - 前九、〇〇 家庭メモ
 - 前二、〇〇 婦人講座「婦人の爲の經濟知識消費税と關稅」小山田小七
 - 後〇、〇五 トーキョー中繼「戀のナポリ」木田牧童
 - 後〇、三五 詩吟 大藤博之
 - 後二、〇〇 婦人の時間「家庭と法律 婦人犯罪の二三の特徴」大森浩太



(禁上映上) (演時限)

悟道軒圓玉 (作) 丸尾至陽 (繪)

一四四 久振りの呼出し 青木彌太郎は揚り座敷に居つて蓋息また止息、絶食などにたへられるやうと自分の体を試験臺として度々ためして見た

彌「これ、小僧」

と付添ひ居る巾着切を呼んだ

中「且那何んぞ御用でございますかえ」

彌「この紐でおれの首をしめてくれ」

これを聞くと巾着切はびっくりして

中「そいつは且那出来ませんや、またお前さんも短慮だ、今までごう問をこらへてゐながらこゝで死ぬとは短氣でございます」

彌「馬鹿なことをいふな、俺は死ぬ覚悟で首をしめてくれとはいはねえ、一時息をとまるとも決して死なねえ、それをためすためにこの紐を首にまきつけてしめろ」

中「それは悪いいたづらだ、気が着けば笑つてすみませうが気がつかずば死にますよ……」

彌「イヤ、今まで息をこらしてためしてゐるして見れば死ぬことはなからうこの



紐でしめてくれ」 中「そいつは御免かうむります」 彌「弱い奴だな、それではおはおれが一人でしめる」と牢の梁へ細紐をかけて

彌「イヤ、自殺する意志でいたしたことでござらぬ息を止めても何れ程まで生きて居られるかそれをためすためにいたしたことだ」 ○「何だと、首をくくつたは息を止めてまた生さるをためすためだと、首くくりの稽古をするやつがあるかこの馬鹿者め」 叱り付けて紐を取上げて出て行つた、これ以來青木は首をつることは出来ない精神をおらつけてまづ魂をぬる工夫をした。

首をつつた、ところへ見まはりの鍵番が来て何ぞ變つたことはいかといひながら半の中を見ると青木が梁からさがつてゐる、イヤ鍵番はおどろいて直に役人を招んで戸前をひらいて牢に飛び込み彌太郎を引きおろし

○「これ、何で自殺する、心得ちがひなことをするな」ところで世の中は次第々々に變つて来て、張番やまた鍵番の話によると徳川家の威力は日にましておとろへ今にも滅亡するであらうとの風聞、ところへお花の名義で菓子差入があつたこれは懐中じりこです、もち論この菓子は點検した上にならずには牢へ入れぬが懐中汁紛には懐かいります

湯の中汁紛にならない、そこで湯呑に湯をもらひこの中におとすと館が解けるにしたがひ辻占が出た、これに世の中のことがこまに認めてある、これで世間の様子がわかる、懐中汁紛によつて秘密に世の動靜をしらせるとは今までにないことです。又お花はこれから男となつてあなた志を繼いで徳川様のためにつくすといふことが書いてある。

とその年の九月、もう呼び出しはあるまいと思つてゐたに突然評定所に呼び出された。青木はすつかり体をきたへてあることゝて今日のごう問は石は抱かせまい、何ぞあたらしき責にかけるに相違ない、しかし責めるならばごう問所に呼び出すが當然、それが評定所

に呼び出すは不思議、どんなことを聞くかと興味を有つて出頭した、この時の係は町奉行井上信濃守、大目付神保伯守、お目付瀧澤喜太郎、三手がかりの吟味、青木はこの人々とは知己でした、しかも仲むつまじく交はつてゐたものその人々が裁判官、物に動せぬ青木もこの三人が吟味いたすと聞いてすくなくからずおどろいた、中にも大目付の神保伯守は幕府有名の人物でした、屋敷は深川伊予橋のそば、そのむかふが富川町、表高は三千石、旗本としては大身、それに井上信濃守も瀧澤喜太郎も幕臣のうちでは屈指の人物、どんなことを問はれるかと青木はこの時ばかりはおどろいたさうです。

石炭 コークス 豆炭 阿部石炭店 平驛前 電話三十七番

難波 内科一般 醫學博士 難波 睦 看護婦募集 平町大町新川端 電話五〇〇二

橋本屋 造花店 神佛具 速迅價廉 町川新平 番三六一電

夜間 腸胃性病性 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科 門 院醫性病腸胃村松 (番〇七一町南町平)

謹啓亡父五郎葬送の際は遠路の處御會葬被成下且つ御鄭重なる御香奠を賜はり御厚志の段難有奉深謝候拜趨御禮可申述の處乍略儀以紙上御禮申上候 昭和十一年六月十一日 親加 威納 一邦 同武 敬具